

そらべつ 議会だより



胆振管内女性農業者グループ香凜's出前授業in壮瞥高校

■ 第2回定例会のあらまし	2
■ 一般質問	4
■ 視察報告	6
■ 委員会レポート	9
■ 薫風	10

発行 / 壮瞥町議会

編集 / 議会広報特別委員会

(TEL 66-2121・FAX 66-7001)

No. 70

■2018年8月■

町内の気象観測データをパソコン・スマートフォンでリアルタイムで閲覧可能に!

平成30年第2回定例会は、6月14日から15日までの2日間の会期で開催されました。2名の議員が一般質問を行い、町政を質しました。固定資産評価審査委員会委員の選任についての議案ほか、議案4件、報告3件、諮問1件を審議し、それぞれ可決しました。

第3回臨時会

第3回臨時会は、5月9日に開催され、専決処分の承認についてのほか、議案4件を審議し、それぞれ可決しました。

専決処分の承認（平成29年度壮瞥町一般会計補正予算（第17号））について
9705万円減額

補正後の予算総額
39億5198万8千円

平成30年度壮瞥町一般会計補正予算（第1号）について
542万円追加

質疑

公共施設管理事業（指定管理

者施設）修繕料の具体的な内容は。

答弁

森と木の里センターの階段手摺の一部補修と周辺の環境整備にかかると、仲洞爺キャンプ場センターハウスの駐車場スペースの拡張とテントサイトの整備にかかるとなっている。

第2回定例会

固定資産評価審査委員会委員の選任について

質疑

町民または納税者からの固定資産評価審査委員会に対する不

服申し立ての状況について。

答弁

ここ10年以上不服申し立ては行われていない。



小学校1年生によるヤマバの放流

専決処分の承認（平成30年度壮瞥町一般会計補正予算（第2号））について
45万4千円追加

補正後の予算総額
38億6287万4千円

蟠渓地区温泉メーター取替工事に係る専決処分を承認しました。

平成30年度壮瞥町一般会計補正予算（第3号）について
2755万5千円追加

補正後の予算総額
38億9042万9千円

通知カード・個人番号カード関連事務負担金
10万2千円追加

質疑

マイナンバーカードの発行状況と課題について

答弁

平成30年4月末までに359枚発行している。課題については、本町のマイナンバーカードの発行率は15%程度で全国平均よりも高いが、全国的に普及が進んでいないので、国の普及対

平成30年 第2回



壮警高校 朝市

策等を踏まえながら本町の取組を進めたい。

気象観測用電源及び光配線工事

15万1千円追加

質疑

民間事業者から無償提供された気象観測システムに係る工事だが、その気象観測データは一般家庭でも活用可能か。

答弁

インターネットを介してシステムを運用するので、一般家庭でもパソコン、スマートフォンなどでリアルタイムで気象観測データを閲覧できる。

観光費

70万円追加

質疑

平成30年度のそうべつ観光協会事業補助金の人件費分の大幅増について、予算審査特別委員会において観光協会と協議する旨の答弁があつたが、協議はどこまで進んでいるか。

答弁

観光協会と協議を行い、一定程度の人件費の削減を行う旨の回答を観光協会からもちつていますが、具体的な人件費の削減額、方法まで把握していないので詳細な内容がわかり次第、議会へ報告したい。

町道滝之町中島1号線農業集落排水管路施設調査委託料

220万円追加

質疑

具体的な事業内容は。

答弁

町道滝之町中島1号線改良事業の実施にあたり、地下に埋設されている下水管路の状況を確認する調査となっている。

河川維持経費

100万円追加

質疑

具体的な事業内容は。

答弁

幸内川の法面崩壊が確認されたことから、川の閉塞の危険を

回避するための作業等に係る経費となっている。

ふるさと応援基金繰入金

3023万6千円追加

質疑

平成29年度のふるさと応援寄附金の総額、一番多く指定される使途、返礼経費、基金残について。

答弁

寄附金総額は2295件で3023万6千円、使途の指定は自治体におまかせするが一番多く、返礼経費は2000万円程、寄附金は全額を30年度事業の財源に充当するので基金残は0円となる。

工事発注状況

平成30年3月から5月までの発注分

()内は予定価格

- 国道453号水道施設移設工事
26,352,000円(27,756,000円)
道栄・壮建・堀口経常建設企業体
- 久保内ふれあいセンターボイラー取替工事
5,605,200円(5,896,800円)
(有)堀口水道
- 水道メーター器取替その1工事
3,432,240円(3,672,000円)
(有)堀口水道
- 水道メーター器取替その2工事
1,645,920円(1,728,000円)
増井電機商会
- そうべつ子どもセンター空調設備設置工事
8,532,000円(8,996,400円)
(有)堀口水道
- 仲洞爺団地除却工事
7,776,000円(8,175,600円)
(株)出田建設
- 星野単身者住宅物置改修工事
1,198,800円(1,285,200円)
(株)中山工務店
- 道道洞爺公園洞爺線水道施設移設工事
14,904,000円(15,703,200円)
(有)堀口水道

質問

Q & A

「壮瞥町地域防災計画を実効性のあるものにする」

Q 民生委員・自治会・社会福祉協議会で情報の共有を

A 個人情報に細心の注意!!
慎重に対処して取り組む



佐藤 恣

のように取り組んでいるか。

町長

地域防災計画に基づき住民福祉課が把握している要介護状態や障害区分等の情報を加味して避難行動要支援者名簿を作成、年2回程度更新している。

議員

この名簿に登録されている人数は。

総務課長

町内全体で29年度は94人、30年度は77人で、町内を6地区に分けて人数を把握している。

議員

作成した避難行動要支援者名簿を災害発生時に効果的に活用するために自治会等との情報共有はできないか。

町長

この要支援者名簿は個人情報が含まれているので、この名簿を関係者（団体）と情報の共有をするとき、一番大切なプライバシーの保護の観点に立ち、最低限の必要事項のみとして慎重に取り組ませていただきたい。

議員

地域防災計画で「自主防災組織の結成と育成」を掲げているが、壮瞥町の状況は1自治会のみで結成率も胆振管内で最低の5・3%、地域の実態に合った防災組織の結成と育成が必要では。

総務課長

単位自治会の高齢化がどこでも問題にされており、いくつかの自治会が一緒になって取り組むことも必要。また、自主防災組織で大切な人材育成があり、これらを参考にしながら結成と育成に取り組むことが大切と考えている。

町長

地域防災計画で「自らの身の安全は自ら守る」という防災の基本に立ち、自ら災害に対する備蓄を行うとともに防災訓練など自発的な活動への参加の働きかけ、防災講演会や広報活動に取り組みなど理解を深める努力をしている。

議員

避難訓練や防災講演会の参加人数は。

総務課長

避難訓練には、25年度は住民10名、職員29名、関係機関20名の計59名が参加、29年度は住民113名、職員25名、関係機関17名の計155名が参加した。

議員

従来の避難訓練は平日の実施で参加者も固定化し少ない状況、いつ起こるかかわからない災害に対処するため、土曜・日曜の訓練実施も必要でないか。

町長

災害はいつ起こるかかわからないことから、休日・土曜・日曜に訓練ができるかどうかについて検討したい。協力をいただくと警察、消防などの休日実施による体制についての課題もあることを理解願いたい。

議員

今回の防災計画の特色である災害発生時の要配慮者、避難行動要支援者の名簿作成には、ど



自治会長会議

【壮警町の未来をどうやって描いていくのか】

Q 持続発展していくための
行財政改革の進め方は？

A 経費負担のあり方について、
全ての事業で精査、検討を行う。



真鍋 盛男

議員 これまでの行財政改革を踏まえて、今回の行政改革実施計画を策定したと思うがすべての事業の精査、検討が行われたか。

町長 計画策定の際に、課長職で組織する行革推進本部員会議において全ての事業を対象に意見交換を行い、計画に反映しているし、また、新年度の予算編成では、財源状況を十分考慮し、必要度、優先度等に応じた事業の精査、取捨選択を行った。

議員 壮警町を自治体として維持していくために計画以上の経費削減が必要と考えるが、今後の考えは。

町長 計画に示した以上の経費削減を継続的に行う必要があると認

識しているが、町の活力が削がれてはならないと考えており、この計画と並行して、第2期定住促進・公共施設有効活用計画を推進し、壮警町全体の活性化に取り組んでいきたい。



久保内地区合同大運動会

議員 今後の財政運営の考えは。

町長 人口減少などによる地方交付

税の減、高齢化による社会保障経費の増、老朽化施設の維持経費の増等が見込まれ、28年度末に19億6千2百万円あった基金が、34年度末には11億円に減少する見込みで、厳しい財政運営が続く。行政サービスの低下を招くことのないよう、歳入に見合った歳出構造へ転換し、収支均衡を図るため、全ての事業、施設の統廃合などの抜本的な見直しを進める。

議員 廃止できない事業（コミュニティタクシー、移送サービス事業等）は、利用料の値上げが必要ではないか。

町長 これからの推移を見ながら検討していく。

議員 30年度の堆肥センター予算は前年度から変わらない印象であり、自治体として生き残っていくという思いが感じられないが、考えは。

町長 売上げを伸ばし、実質経費

が1千5百万円前後になるよう、町職員、リサイクルシステム職員も頑張っていると認識している。

議員 34年度末の基金残高が11億円に減少する見込みとのことだが、人口が1千6百人台になった場合の財政規模は。

副町長 現在30数億円の財政規模だが、人口の少ない他町村の予算規模は20〜40億円台と千差万別であり財政規模がどのくらいかは示せない。ただ、人口が半減しても半分の財政規模にはならないと考えている。

議員 相当な覚悟を持って30億円以下の財政運営に今から対処しなければ手遅れになるのではないか。

町長 町の将来に向け、どうしてもやらなければならないこともある。第5次行政改革実施計画をしっかりと進めなければ壮警町の未来がなくなることを肝に銘じて取り組み、町民皆が明るく活力を持っていつまでも住んでいけるよう努めていきたい。

視察報告

7月2日に、鷹栖町及び旭川市内の農業生産法人の行政視察を行いました。
また、翌3日には、札幌市内で開催された北海道町村議会議員研修会に参加しました。

「鷹栖町における生ゴミ堆肥化の取組」

長内伸一

去る7月2日、全道議員研修に先立ち鷹栖町の生ゴミ堆肥化の取り組みを視察しました。

この施設

は循環型社会を構築するまちを基本目標として平成20年4月に供用開始しました。

建物面積589㎡で一日26トン（家庭系12トン・事業



鷹栖町視察～説明の様子

系14トン）、年800トンの処理能力があります。1億3900万円の建設費を投じたこの施設の運営経費は平成29年度で約952万円で町直営のため人件費は含まれていません。

家庭系生ゴミ収集は2地区各週1回で週2回収し、各地区のゴミステーションに生ゴミ専用容器で出す方式を取っています。生産された生ゴミは21・22年度は住民に無料配布の上アンケートを実施し、その結果により料金や配布方法を決定し、23年度から一袋（13キロ）を200円で有料還元配布を開始し、4万7千袋を配布しています。尚、公共施設等には無料配布しています。29年度の生ゴミ搬入量390トンに対し生産数は4千486袋で配布数は4千622袋で在庫数は3千139袋でそれは次年度春に配布されます。年間販売額は80万円ということです。課題としては、稼働から10年を経過し施設の修繕費が高んできており、今後修繕して使つか新たな処理方法を検討するかの選択が必要になるとのことでした。

また、鷹栖町の生ゴミ堆肥は農業の現場では

使われず家庭菜園での利用で当町で課題になった生ゴミの農業現場の利用禁止は鷹栖町では問題にならないかったようです。

鷹栖町は生ゴミだけの処理施設な

ので当町の施設と一概に比較はできませんが、年間運営経費が人件費を含めないで952万円に対し販売額が約80万円で収支を前提とした運営を考えていないと考えられます。

また、生産された堆肥は町民還元としてほぼ完売しており、鷹栖町の目的である循環型社会構築の目的としては達成しているといつてよいと思われる。

当町の施設は、堆肥センターのコスト面から生ゴミ堆肥の継続の是非が課題であり、環境に負荷をかけない循環型社会の構築に対してどう取り組むか行政としてのあり方が問われます。



生ゴミ堆肥化センター現地視察

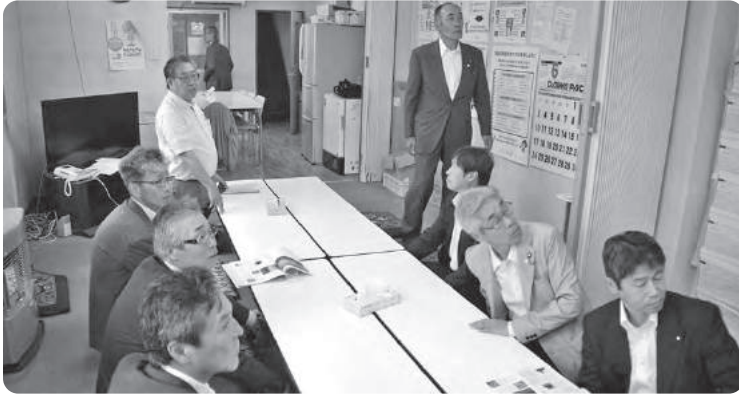
「こだわり農業と経営 多角化でガツチリ!!」 〜谷口農場視察〜

松本 勉

谷口農場は旭川市の郊外に在って、現在の社長
の曾祖父の入植から110年を超える歴史が
あり、農産物の生産、加工、販売（6次化）を
独自に手掛け、三健農業（大地・作物・人の健
康づくり）の実践を経営理念に掲げている。

経営面積は55ha（水稲43ha、トマト4ha、ト
ウモロコシ5

ha、大豆、小
豆、馬鈴薯他
3ha）で、売上
高（グループ
全体）は5億
6千万円、10
年前に株式会
社化（資本金
5千万円）し
ており、従業
員は35名（役
員3名、社員
21名、パート
7名、海外研
修生4名）を



谷口農場視察～説明の様子

数える農業生
産法人である。

経営特徴と

としては、まず
40年に及ぶ有
機農業への取
り組みであり、

風土を活かし
た土づくりや

持続可能な寒
冷型農業技術

に裏打ちされ
た生産から加

工に及ぶ食の
安全、品質管

理のクオリティへのこだわりで、農場及び食品

工場の有機JASやJGAPの認証を取得して

いる。農場内には直売店があり、自社工場で製

造された有機トマトのみを原料としたトマトジ
ュースや、野菜ジュース、ゼリー、甘酒、味噌

等の加工品が、その日採れた生産物と共に販売
されており、当日も市内外から買い物が訪れ
ており、地域からも信頼、支持を受けているこ
とが伺えた。

また、谷口農場は「農の雇用」にも力を入れ
ており、労働力確保の面だけでなく、農業生産
部門と加工部門での次世代を担う人材育成にも
努めており、そのことが従業員の定着率と自社



農場直売店&カフェ「まっかなトマト」

の知識力、技術力、そして企業力アップに繋が
っている。ちなみに、従業員は全て非農家出身
であるが離職率は低く、労働条件も週40時間労
働（年間を通しての変形労働時間制）を確保し、
給与総支給額を総労働時間で割った額も北海道
が定めた最低賃金を超えている。さらに、農閑
期に偏るものの有給休暇の積極的消化も勧めて
いる。また、現在ベトナムからの就農実習生が
4名いるが、労働条件は日本人とまったく同様
で、逆に時間外労働についてはさらに厳しい制
限があるという。

こだわりの生産から真心の加工まで高品質、
高付加価値のモノづくりに一貫して取り組み、
経営多角化の相乗効果を最大限に発揮させ、北
海道における次世代型、高品質農業生産法人を
目指す谷口農場に今後も注目したい。

「明治維新から150年 現在そして未来を考える」

佐藤 恣

7月3日、札幌市コンベンションセンター
（白石区）を会場に、北海道144町村で組織
する北海道町村議会議長会主催の議員研修会に
1000名を超す議員が参加して開催、その中
で行われた講演です。

講師の加来耕二（かくこうぞう）氏は、1

958年（昭和33年）生まれ、大学卒業後、大学研究員、その後、大学・企業・官庁等の講師を務めながら作家活動に従事、「歴史家・作家」と自称、90分に及ぶ講演の骨子を報告します。

■歴史を見るときの基本

歴史学のイロハのイは…

- ・歴史上の人物の生き方や事例について話され、歴史を考え見るときの留意点として、
- ・まめに答えを出すのを慌てるな。
- ・前に答えが無くとも必ず答えは後ろにある。
- ・冷静にバランスを持って物事を判断する訓練をせよ。

- ・右腕右手に真実はなく、隠れている左手にこそ真実がある。
- ・小さなことでも立ち止まって、振り返ることが大切である。

■右手の法則、左手の原理

手品師が右手で演じる手品のタネはどこにあるのか。間違いなく反対側の左手にあるが、これに気が付かれる方は少ない。これと同じようなことが日常生活で行われているという自覚をしっかりと持つことが大切であり、立ち止まって考えることが大切である。

■歴史を考えるときの原則

物語は歴史ではない。歴史学は地に足のついた

た考え方であり、どんな小さなことでも立ち止まる必要がある。数字を大切にしている。数字を大切にすることが必要である。数字が嘘をついた歴史はない。数字はもっとも謙虚なものである。



全道議員研修会

「現代日本政治と政局のゆくえ」

菊地敏法

日本大学法学部教授であり、政治家の政治資金、国会活動に詳しい政治学者でもある岩井奉信先生を講師に迎えての90分の講演。

今世間を騒がせている、日本大学アメリカンフットボール部の初期対応の悪さを例に取り上げながら、安倍政権の森友学園等の問題も、初期対応の誤りが一因で、今のよう大きな問題に発展してきたと指摘し、この段階ではこの

マスコミも、安倍政権は、次はないとの報道だったが、ここにきて、サッカーワールドカップの話題に切り替わり、また、支持率も回復してきたことから、情勢は変化しているとのこと。

今後の展開とし、注目すべき点は、自民党総裁選であり、来年の参議院選挙を見据えた、安倍総理の動向である。

先生はずばり、自民党総裁については、安倍さんが間違いなく再選すると断言、また、来年の選挙を見据えて安倍総理が日ごろから言われている、憲法改正を、どの様に切り出すのか、さらに、選挙では増税を掲げると負けるということから、来年は消費税を8%から10%に上げることになっているが、これをどう決断するのか、もしかすると、消費税をもう一度据え置くとの決断で、衆参ダブル選挙に突入する可能性もあるのではないかとの見解を示していた。

最後に地方分権のことに触れ、今後ますます地方政治の役割が大事になってくる時代になったが、地方分権というのは、国発ではなく地方発の政治を行うのが本来の姿であり、上から降りてくるのを待つ政治からの脱却を訴え締めくくった。



委員会レポート



経済常任委員会

◎地方交付税について

平成30年3月6日に、総務課担当参事から、地方交付税の算定方法について、学校に対する算定方法を中心に、平成28年度の資料をもとに概要の説明を受けました。

小学校、中学校、高校の学校数、生徒数、教員数、養護教員数に応じて算定されており、教員の人件費は100%交付税により賄われていることが確認できました。

ただし、学校運営に必要な事務職員、公務補、実習助手の人件費、実習費用については、町の負担となっており、壮警高校では、事務職員1名、実習助手2名のほか、実習に係る経費で約2千万円程について、一般財源を充てているとのことでした。

また、小中学校においても同様に、事務職員2名、公務補3名の人件費について、町の一般財源を充てていることが確認できました。

このほか、町道の延長距離、公民館などの公共施設の数、人口等に応じて交付税が算定されており、本町では約17億円が地方交付税として交付されているとのことでした。この金

額は、一般会計予算額約40億円の40%を占める大きな財源であり、27年度までは、当初の歳入予算額よりも多く交付されていましたが、28年度からは、概ね当初の歳入予算額と同額の交付となっており、今後は、人口減少による交付額の減少も見込まれていることから厳しい財政運営が続くことについて理解を深めました。

30年度予算においても、29年度に続き、基金からの繰入金金が2億円強となっており、基金残高が減少しているなか、早急に財政改革を断行しなければならぬという危機感を感じ、町民とともに、このことについてどう対処していかねばならないかを深く考えさせられました。



壮警中学校体育大会

3月6日に経済常務委員会で所管事務調査を実施しました。

壮警町 議会ホームページ



ホームページでは議会中継・議会だより・会議録や議決結果などを見ることができます

ホームページでは、議会中継や議決結果などを見ることができます。また、議会が近くなると日程の案内等も掲載しており、議会の様子はインターネット中継で配信されますので、ぜひご覧になってください。

URL <http://www.town.sobetsu.lg.jp/gikai.html>

薫風

「ケミヤルヴィ市と

壮警町の交流について」

〜 壮警町を訪問して〜

ケミヤルヴィ市長 アッテ・ランタネン



壮警町の皆様へ

今冬、フィンランド雪合戦チームと一緒に、美しい北海道壮警町で開催される昭和新年国際雪合戦に参加できたことに心より感謝申し上げます。

昭和新年国際雪合戦は、規模も大きく、壮警町の皆様にとって大変重要なイベントであることを知り、感銘を受けました。こうしたイベントは、多くの町民・スタッフの皆様のご一生懸命なご尽力がなければ開催できないものと思いません。大会では、競技中も、大変楽しく、和気藹々とした雰囲気があり、フィンランドの雪合戦大会で

も、まだまだたくさんのごことを壮警町から学ばなければならぬと感じ、忘れがたい貴重な経験となりました。壮警町の友人の皆様は、我々に最初から最後まで心のこもったおもてなしをしてくださいました。

特に最後の夜の懇親会でたくさんのおいしい料理をいただきました。会話をゆつくり楽しみながら、時間が経つのを完全に忘れるくらい楽しく時間を過ごしました。特に日本の素晴らしい歴史と文化について色々学ぶことができました。また、学校訪問では、学校や教育について学ぶことが多く、児童生徒の皆さんにも親しむことができ、大変印象に残る思い出となりました。

横綱北の湖記念館にも行くことができ、横綱の身体の大きさに久しぶりに私自身が小さく感じる事ができ、非常に嬉しかったです。

壮警町とケミヤルヴィ市の姉妹都市交流は、長い歴史があります。多くの若者が友達となって、今でも連絡を取り合っています。これまでたくさんの方の経験を重ね、文化

面の情報交換もでき、今後その通り続いていけるものと強く信じています。こうした経験を通じて、若者は国際的な視野を持てるようになり、世界中の人達も、近くに住んでいる人と一緒だということをよく理解できるようにしたいと思います。特に現在の社会においてはそういう能力は非常に重要であると思います。

ケミヤルヴィ市からの訪問を快くおもてなしいたいただき、改めて感謝いたしますとともに、壮警町の素晴らしい自然と風景の中で、いろいろと貴重な経験をする機会を設けていただき心より感謝申し上げます。

これからも壮警町の皆さんとの交流が継続され、さらに深まることを願っておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

お詫びと訂正

平成30年5月1日発行、議会だよりNo.69号3ページの表に誤りがありました。

【誤】 議会運営委員会

【正】 議会運営委員長

以上のように訂正し、ここに謹んでお詫び申し上げます。

議会広報特別委員会

編集後記

いったいどうなっているんだろう。

西日本豪雨による死者が200人を超えました。連日停滞した梅雨前線により広範囲に及んだ豪雨による河川の氾濫と土砂被害によるもので、まだ被害は拡大しそうです。亡くなられた方々に心よりご冥福をお祈りすると同時に数十年に一度と言われる豪雨被害が毎年のように日本各地で発生する現実に非日常が日常になりつつある自然の怖さを感じます。

今回は過去の反省から気象庁も広範囲に大雨特別警報を出し、最大級の警戒を呼びかけたにも関わらず多くの犠牲者を出してしまいました。人生には三つの坂があると言います。上り坂・下り坂そしてもう一つは「問坂」です。

私の街には、私の家には「問坂」来ないだろうという思い込みが犠牲者を多く出す大災害に繋がったのかもしれない。このような自然災害はどこでも起こると考え自分の判断で避難を決定する勇気が必要です。(S.O.)